

【複数年度(2年目)】新潟市バス停バリアフリーの推進に向けた社会実験(新潟県新潟市)

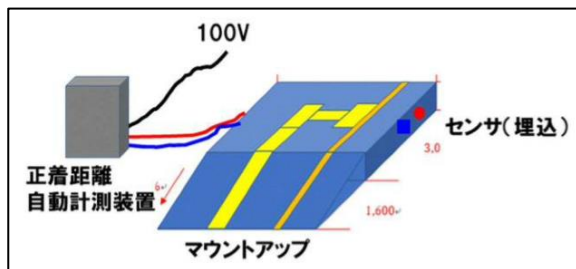
1. 実験概要、留意すべき事項

- バス停に寄せやすくするバリアレス縁石を試験的に導入し、バス車両を確実に完全正着させ、これまでバス停車帯として利用していた道路空間を将来的にはバス待ち空間(歩道空間)として活用するなど、道路空間の再構築、バス停のバリアフリーについて検証する。
- バスの正着性に関して、バリアレス縁石を試験的に導入していること。

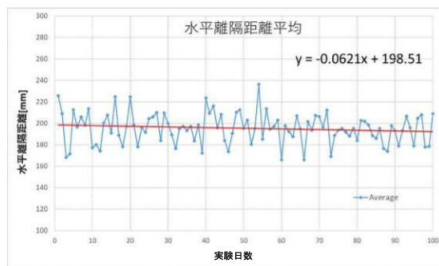
2. 実験内容、実験結果

【正着状況調査、タイヤ摩耗性調査】

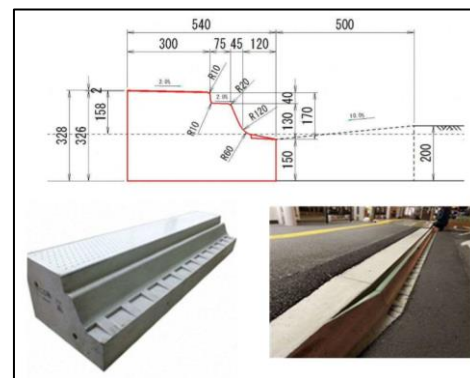
- ① 正着性の検証⇒**正着性の向上、正着容易性の効果を確認した。**
- ② 実用性の検証⇒**タイヤへの悪影響、異常は確認されず、縁石と車両の適合性、安全性が問題になることは無かった。**



自動測定装置



平均水平離隔距離の推移



設置した縁石の基本諸元

【マウントアップの実用性調査】

- ① 実用性の検証⇒**有効性を確認した。**
- ② 高さの検証⇒**高さ250mmとすると上面の損傷が確認され、高さの設定に課題が残った。**



高齢者やシニア用キャリーカートの利用者挙動



車椅子利用者乗車体験会



バリアレス縁石の状況

3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
水平離隔のデータを見ると、ばらつきが見られる。ばらつきの要因が何に起因するのか、車種か、進入速度か、ドライバーの年齢や経験年数か、分析してもらいたい。それにより、ばらつきを低減するための設計や誘導についての今後の示唆が得られるだろう。	分析の結果、観測の範囲では、特に進入に際して障害となる事象は一切なく、ドライバーの意向によるものと推測された。

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
令和4年度に開業予定の新潟駅高架下交通広場にバリアレス縁石本格導入される。	バス停への正着が更に向上するよう継続的訓練に取り組んでいく。
バリアレス縁石の公道への本格導入を見据えた時、定時性が求められる。	路線バスの実運行において、発着するバス停への正着については、引き続き検証の必要がある。 バス停への正着の更なる向上には、継続的訓練と併せてバリアレス縁石の機能や活用、そして正着させることの重要性について、事業者やドライバーに、より理解を深めるよう引き続き取り組んでいく。
バリアレス縁石の導入が進むと、タイヤサイドの摩耗の影響があらわれてくる。	タイヤの新技術の実用化が早期に進むようメーカーと協働で検討していく。
乗降部の段差を解消するマウントアップ上面に損傷事象が確認された。	マウントアップの材質、高さ、形状について検証する。

5. 今後のスケジュール

- 令和3年度：公道における路線バスの実運行による正着検証（白山駅前広場・小新バス停）
- 令和4年度：本格導入（新潟駅高架下交通広場）
- 令和5年度以降：本格導入（交通結節点・駅前広場・公共施設等）

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ バリアレス縁石をバス停留場における新たな施設として道路の設計基準等に位置付けられれば、設置主体となり得る全国のバス事業者や地方公共団体が導入しやすくなる。
- ・ 新潟市の場合、警察や道路管理者がバリアレス縁石の機能や必要性について理解をしていることから取組みを進めることができるが、他の自治体ではその有用性を理解されず、既存の縁石と同じ扱いで判断することで導入を認めない状況があり、広く理解されるために、国から何らかの発信することが大変有効と考える。